



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1909号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL (055) 976-6351 FAX 976-6352
例会場 静岡県三島市本町14-31 みしまプラザホテル
TEL (055) 972-2122
会長 渡辺 雅晃 幹事 黒田 一



広重版画より 三島 朝霧

第1972回例会

2013.3.28晴

司 会

前田博利君

ロータリーソング

「それでこそロータリー」
指揮 三田明宏君

会長挨拶

会長 渡辺雅晃君

祝創立記念日

貴クラブ42周年記念日に当たり一言お祝いの言葉を申し上げます。

42年という長きにわたり地域社会に貢献し、また国際平和のため奉仕されてきた事は、誠に輝かしい功績であり尊敬の念を禁じえません。顧みれば私たちの交流は、中学生の交換研修事業を通じた家族ぐるみでのお付き合いから始まり、貴クラブが企画した老人施設整備のお手伝いをさせて頂くなど、深い絆で結ばれてきました。台湾を訪れる度に温かいおもてなしで迎えてくださり、事あるごとにお贈りくださる言葉や品々については、皆様の気遣いあるやさしさの表れであり、感謝の念に絶えません。今後も双方が自己研鑽しながら発展する事を願っております。

一方で、世界中のロータリーで岐路に立っている会員の激減という問題があります。恐らく貴クラブに於いても同様ではないでしょうか。私達ロータリアンは更なる会の向上を願い、自ら活動を楽しみ、退会する会員には後継者を擁立してもらい、新規会員には活動を通じて自分が磨かれている事と認識してもらおう等を手段に、まずは実行する事が大事なのではないでしょうか。

世界平和を願う世界中のロータリアンが手を取り合い、目標達成に日々努力を惜しまず活躍する事を願って止まないところです。

結びに貴クラブの益々の発展とご家族のご多幸を願って、お祝いの挨拶とさせていただきます。

(苗栗扶輪社創立42周年記念式典での挨拶)

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	45/50	90.00%	45/50	90.00%
今回	42/52	80.77%	会員総数	54名

欠席者 石井(彰)君、亥角君、小野(正)君、窪田君、佐野君、諏訪部(敏)君、橋本君、藤江君、矢岸君、渡辺(芳)君

スマイルボックス

- ◆前田(博)君、ミヤオリ行って来ました。チャンスを与えて頂いた多くの先輩に感謝です。ありがとうございました。P. S. 矢岸先輩がなぜかやさしかったです。
- ◆伊丹君、桜祭り中、ご来場下さいまして有難うございます。店内の桜も葉桜に変わりました。又、相山様、大変有難うございます。頑張ります。
- ◆米山君、早退します。
- ◆千葉君、すみません。はやびけします。

2012~2013年度
国際ロータリー会長
田中 作次

奉仕を通じて平和を

おめでとう

会員誕生日 渡辺(雅)君
入会記念日 川真田君、石井(良)君、
澤村君
結婚記念日 野田君

卓 話

第27回交換研修中学生を引率して

遠藤正幸君

今回の中学生は、清水町より2名、三島市より4名の推薦をいただき、男子が2名、女子が4名の構成でした。前半を矢岸さんと前田さん、後半を森崎君と遠藤で担当しました。2回の刈エンターションと、例会に出席してのチャレンジテーマの発表を経て当日に臨みました。

前もって名刺を200枚程度準備するよう伝えてありました。どんなものができるか楽しみでしたが、折り鶴を張り付けたものや、人形の折り紙を張り付けたもの、それぞれ工夫をして手作りのものを準備してきました。学校や役所で名刺交換して、200枚では足りなかった子もいました。

最初は緊張していましたが、慣れるに従い積極的に行動するようになりました。後半の私たちは、42周年記念式典から合流しましたが、その時はすっかり家族の皆さんとも意気投合していました。記念式典では、AKIさんも車いすで元気に出てこられ、楽しいひと時を過ごすことができました。また、会員はもちろんですが、奥様方も参加され会員数35名のクラブが、60名程度のクラブに見え、家族一丸で式典を盛り上げていました。会長幹事も自慢ののどを披露されていました。

交流事業の苗栗市役所では、邱市長に出迎えていただき、中学生は、台湾と日本の違いについていくつかの質問をしていました。苗栗県庁では、劉知事に迎えていただき、いろいろなお話をすることができました。県議会にも行き、議長席にも座らせていただきました。子供たちは、2度とできないような貴重な体験をすることができました。

観光では、台中方面に行き1999年集集の大地震の記念館を見してきました。苗栗のメンバーから、当時日本が最初に駆けつけ、人も物も最大の援助をしていただいたことに非常に感謝している。3.11の時、世界中のどの国より多くの義捐金が集まったのは、その時の感謝の現れです。WBCの台湾戦での応援にも表れていて、うれしくなりました。

話が離れてしまいましたが、今回の生徒がお別れパーティで披露した「花は咲く」これには思わず熱くなりました。これは森崎君のアイデアでした。中学生は、1週間という短い時間でしたが、一生忘れない素晴らしい思い出ができたと思います。私の娘がそうだったように価値観や人生観も大きく変わり成長していただけたと思います。

この事業が、苗栗RCと三島西RC、そして台湾と日本との大きな絆に育つことを祈念します。かつて白井富美雄さんのことば「細く長く」の気持ちで、両クラブの会員家族との交流を大切に育ててゆきたいと思います。ありがとうございました。



(週報担当：勝間田信輔)